

別表1 女性エリートコーチ育成プログラムが設定するコンピテンシー

※「エリートコーチ育成プログラム」「パラスポーツエリートコーチ育成プログラム」共通

コーチの 発達段階	スタンダード	アドバンス	エリート	イノベーター	ターゲットとする スキルおよび キーワード
	プログラム1年目で達成するレベル	2年間のプログラム終了時点で 確実に到達を目指すレベル	2年間のプログラム終了時点で このレベルのスタートラインに立つ	生涯を通して目指すコーチ像	
ビジョンと 戦略の設定	<p>他者の意見を取り入れてビジョンと戦略を設定することができる。</p> <p>他者の支援やツールを用いることで年間の戦略を可視化した形で示すことができる。</p>	<p>アスリート個人、チーム、ステークホルダー、コーチ自身、それぞれのニーズを反映したビジョンを設定し、ビジョン達成に向けた年間の戦略を立案することができる。</p> <p>ビジョンと戦略を簡潔かつ説得力のある方法で示し、チーム内の賛同を得ることができる。</p>	<p>自身の指導現場を取り巻く全体像を把握し、個々のニーズを満たした包括的なビジョンを設定するとともに、実現に向けた戦略を中長期的視点から論理的かつ先見性をもって策定できる。</p> <p>ビジョンと戦略をチーム、ステークホルダーに浸透させ、共通の信念を醸成することができる。</p>	<p>動的かつ複雑で絶対解を見いだすことが困難な現代社会において、現在の社会的通念を打ち破る挑戦的で明確なビジョンを持ち、そのビジョンを実現に結びつけるための明確かつ柔軟、本質的な課題にアプローチする戦略の設定ができる。</p> <p>他者がそのビジョンと戦略へ賛同したくなくなってしまう影響力を有し、社会におけるスポーツの意義や組織の存在価値を高めていくことができる。その結果として、日本の国際競技力向上を牽引することができる。</p>	<p>システム思考スキル、情報収集力、情報発信力、ニーズ分析、本質看取、プランニング、KPI、コミュニケーションスキル、アジャイル開発スキル、リスク分析、リーダーシップスキル等</p>
環境の整備	<p>競技力向上に必要な人的資源、物的資源、経済的資源やシステム、または文化的背景を分析し、現場とのギャップを説明することができる。</p> <p>アスリートの身体的、心理的、社会的な安全を確保するため留意すべき内容を挙げるることができる。</p>	<p>ビジョンと戦略の実現に必要な人的資源、物的資源、経済的資源を明確にすることができる。</p> <p>アスリート、チームスタッフの身体的・心理的・社会的な安全を確保するための環境が整備できる。</p> <p>チームスタッフの役割と責任を明確化し、成長し続ける組織文化や環境の構築に向け、協力的な姿勢を示すことができる。</p>	<p>ビジョンと戦略に応じた、人的資源、物的資源、経済的資源、システムを整備するとともに、一貫してアスリートとスタッフの安全を確保している。</p> <p>組織として継続的に成長していくため、アスリートとスタッフが互いに学びを支援しあえる文化や環境を構築することができる。</p>	<p>ビジョンと戦略に基づき、得られる人的資源、物的資源、経済的資源、およびシステム資源を最大限に活用しつつも、新しい資源開発に惜しみなく取り組み、組織として学習しながら、よりよい環境整備に向けて挑戦し続けることができる。</p>	<p>特性要因分析、ステークホルダー分析、アントラージュマネジメント、選手育成システム、ITリテラシー、危機管理システム等</p>

コーチの 発達段階	スタンダード	アドバンス	エリート	イノベーター	ターゲットとする スキルおよび キーワード
	プログラム1年目で達成するレベル	2年間のプログラム終了時点で 確実に到達を目指すレベル	2年間のプログラム終了時点で このレベルのスタートラインに立つ	生涯を通して目指すコーチ像	
人間関係の 構築	<p>チーム内の関係者への理解を深める努力をしている。</p> <p>自分の考えを整理して伝えることができ、他者の意見を引き出すために意識的に発問することができる。</p>	<p>他者との関わりの中で相手の文脈を読み取るための視点や具体的なアプローチを挙げられるとともに、意識して振る舞いを変えることができ、結果としてアスリートやチーム内の関係者と良好な人間関係を構築することができる。</p>	<p>アスリート、チーム関係者及びステークホルダーと互いに信頼、尊重できる関係性を構築しており、自身の振る舞いが他者へ与える影響を理解するとともに倫理的配慮や法的基準を遵守する規範として立ち振る舞うことができる。</p> <p>ビジョン達成に向け協力を仰ぐべきステークホルダーや専門家を分析し、協力を取り付けるとともに互いに支援し合える関係性を築くことができる。</p>	<p>感情知性や文化的知性に裏付けられた、親密性、コミットメント、相補性、共志向を基盤とした質の高いコーチ-アスリート関係を構築する能力が秀でており、ロールモデルとしてアスリートの信頼と尊敬を得ている。</p> <p>コーチ-アスリート関係以外にも、様々なステークホルダーとの良好な関係性を築きつつも、常に信頼性の質を高めると同時に、新しい関係性を探し求め、自身のコーチングに対する支援者を開拓し続けている。</p>	<p>観察・傾聴・承認・質問スキル、共感力、感情知性、文化的知性、コミュニケーションスキル、プレゼンテーションスキル、ファシリテーションスキル、リーダーシップスキル等</p>
練習の実施と 試合への準備	<p>自身の競技経験または指導経験、他者の支援を得ることで年間計画や具体的な目標を設定することができる。</p> <p>アウトカムベースの練習を立案することができ、アスリートやスタッフに運営方法や意図を説明できる。</p>	<p>ビジョン達成に向けた年間計画を短期・中期・長期目標から細分化して立案することができ、計画の進行を情報に基づいて評価することができる。</p> <p>練習ではスポーツ医・科学の知見を活用し、アスリートの思考や主体性を刺激する具体的なアプローチを意識してとることができる。</p>	<p>達成すべきビジョンに基づき、アウトカムベースで中長期計画やセッションを計画・運営・評価し、状況に応じて柔軟に修正することができる。</p> <p>練習やコンディショニングはスポーツ医・科学分野の専門家と連携し、科学的根拠に基づく実践を行っている。</p> <p>アスリートの学習を最適化するため個々の文脈に合わせた練習方法や教授方法を選択することができる</p>	<p>複数スタッフが関わる各種ナショナルチームで指揮をとることができる。</p> <p>スポーツ医・科学の最先端知識を有する科学者らと協力して、新しい戦術の開発や練習方法の開発ができ、その競技の発展に向けた取り組みをリードしている。</p> <p>コーチング現場からスポーツ医・科学スタッフに対して新たな研究のインスピレーションを誘発する対話を行うことができる。</p> <p>練習の過程において、その場の文脈に合わせて、アスリート自身が主体的にパフォーマンス向上の課題解決に取り組んでいくのに最適な方法論を選択できるように、多くのアプローチを身につけている。</p>	<p>スポーツ医・科学活用スキル、運動学習理論に基づいた練習構築、ピリオダイゼーション、コンディショニング、チームビルディング、アスリート・センタード・コーチング等</p>

コーチの 発達段階	スタンダード	アドバンス	エリート	イノベーター	ターゲットとする スキルおよび キーワード
	プログラム1年目で達成するレベル	2年間のプログラム終了時点で 確実に到達を目指すレベル	2年間のプログラム終了時点で このレベルのスタートラインに立つ	生涯を通して目指すコーチ像	
現場の理解 と対応	<p>いかなる状況においてもアスリートの権利や尊厳、人格を損なう行為が許されないことを認識し、相手の感情や考えを尊重する姿勢を意識している。</p> <p>アスリートのパフォーマンスを自身の競技経験や指導経験を活かして観察・分析・評価することができる。</p> <p>安全なスポーツ環境を整える具体策と基本的な救急処置能力を有している。</p>	<p>全アスリートへ平等な対応を意識するとともにアスリート個人が持つ文脈を理解する努力をし、自身の言動が倫理に反するものでないか、常に振り返ることができる。</p> <p>アスリートのパフォーマンスを把握するためにスポーツ医・科学の視点を活用することができ、科学的根拠をもって判断することができる。</p>	<p>一貫してチームを取り巻く関係者の権利や尊厳、人格を尊重した行動ができ、有事に備えた安全管理の体制を整えている。</p> <p>アスリート育成強化に関わる専門家と連携することで、多角的にパフォーマンスの観察・分析・評価を可能にしており、根拠に基づいて競技力向上へアプローチすることができる。</p> <p>意思決定は一貫してビジョンと戦略に基づいており、常に説明責任を果たす準備ができています。</p>	<p>他のロールモデルとなる倫理観や規範意識を有している。</p> <p>その時々々の文脈の変化を敏感に読み取る力を有し、設定したビジョンと戦略に基づいた適切な一貫した言動を選択することができる。</p> <p>優れた感情知性や文化的知性を発揮し、アスリートをはじめ、全ての関係者と平等な立場に立ち、常に謙虚な態度をとることができる。</p> <p>柔軟な思考法によって、複眼的な視点から事象を見つめ、自らが学びながら意思決定し行動していく力を有している。</p>	<p>倫理観、コーチング哲学、安全管理、救急処置、観察・傾聴・承認・質問、形成的評価、フィードバック、コミュニケーション、プレゼンテーション、ファシリテーション、コンフリクトマネジメント等</p>
学習と内省	<p>アスリートの競技力向上に貢献するため、コーチ自身が学び続ける重要性を認識し、自身の課題を特定できる。</p> <p>成長のため他者の意見や新たな知識を取り入れることができる。</p>	<p>コーチとして常に学び続ける必要性を認識し、自身のコーチングを振り返っている。</p> <p>成長のため課題を分析し、変化を恐れず挑戦することができる。</p> <p>客観的に自身のコーチングスキルを評価する重要性を認識し、積極的に他者から学ぶ機会を設けている。</p>	<p>客観的な視点で自身のコーチングを振り返ることができ、根拠に基づいて評価し、解決策を選択できる。</p> <p>実践コミュニティに参加し、コーチングに関する最新の情報を収集するとともに、自らの知識や経験を他のコーチと共有している。</p> <p>常に変化を受け入れる柔軟な思考を持ち、挑戦的に実践を変化させることができる。</p>	<p>常に内省的で自身を客観的な視点から評価することができる。</p> <p>困難や挑戦を歓迎し、全ての経験を学びの機会として捉えることができる。</p> <p>自分の成長に責任を持つだけでなく、実践コミュニティの中心として他者の学びをリードしつつ自分の学びに繋がられる。</p>	<p>自己認識、省察的実践者、アクションラーニング、成長的マインドセット、レジリエンス、向上心、実践コミュニティ等</p>

別表2 研修会プログラム案

【令和4年度】

第1回（令和4年9月2～4日：対面）

ブロック	プログラム	
	テーマ	含まれる知識、スキルおよびキーワード
1	アイスブレイク	コミュニケーションスキル
	エリートコーチとして備えておくべきもの	コーチの職務、特性要因分析、本質看取
2	ハイパフォーマンスプロジェクトの導入	特性要因分析、システム思考、ピリオダイゼーション、プランニング、KPI、アジャイル開発スキル
3	自己認識とコーチング哲学の構築	自己認識、コーチング哲学
	さまざまなリーダーシップのあり方	アスリート・センタード・コーチング、リーダーシップスキル
4	コミュニケーション戦略（アスリートへの異なるアプローチの仕方）	アスリート・センタード・コーチング、共感力、感情知性、文化的知性、リーダーシップスキル、コンフリクトマネジメント、傾聴、質問、観察
5	自身の成長計画作成	自己認識、本質看取、ロジカルシンキング
	間の学習の目標設定とアクションプランの策定	省察的实践者、アクションラーニング、システム思考スキル、プランニング、KPI、アジャイル開発スキル
	第1回研修会振り返り	-

第2回（令和4年12月5～9日：オンライン）

ブロック	プログラム	
	テーマ	含まれる知識、スキルおよびキーワード
1	間の学習の振り返り	-
	実践コミュニティ	実践コミュニティ、リーダーシップスキル、ファシリテーションスキル
2	女性コーチを取り巻く課題	女性コーチを取り巻く課題
3	コーチに必要とされる知識とは （専門的知識、対他者の知識、対自己の知識）	コーチに必要とされる知識、特性要因分析、本質看取
4	ビジョンの設定と戦略プラン、強化計画の立案方法（ハイパフォーマンスプロジェクト）	特性要因分析、システム思考、ピリオダイゼーション、プランニング、KPI、アジャイル開発スキル
	プレゼンテーション実践	プレゼンテーションスキル
5	間の学習の目標設定とアクションプランの策定	省察的实践者、アクションラーニング、システム思考スキル、プランニング、KPI、アジャイル開発スキル
	その他、コーチに必要とされる知識	-
	第2回研修会振り返り	-

第3回（令和5年2月24～26日：対面）

ブロック	プログラム	
	テーマ	含まれる知識、スキルおよびキーワード
1	間の学習の振り返り	-
	実践コミュニティ	実践コミュニティ、リーダーシップスキル、ファシリテーションスキル
2	ファシリテーション実践	ファシリテーションスキル
3	ハイパフォーマンスプロジェクト中間発表会	プレゼンテーションスキル
4	個人ミーティング	-
5	間の学習の目標設定とアクションプランの策定	省察的实践者、アクションラーニング、システム思考スキル、プランニング、KPI、アジャイル開発スキル
	その他、コーチに必要とされる知識	-
	第3回研修会振り返り	-

【令和5年度】

第4回（令和5年5月22～26日：オンライン）

ブロック	プログラム	
	テーマ	含まれる知識、スキルおよびキーワード
1	間の学習の振り返り	-
	実践コミュニティ	実践コミュニティ、リーダーシップスキル、ファシリテーションスキル
2	コーチング環境を整える（ヒトモノカネ情報、システム）	特性要因分析、ニーズ分析、ステークホルダー分析、アントラージュマネジメント、選手育成システム、情報収集力、ITリテラシー
	安全で安心なスポーツ環境の整備（倫理的判断力、安全管理）	倫理観、コーチング哲学、安全管理、危機管理システム、救急処置、セーフスポーツ
3	チームを取り巻く関係者に理解を深める	特性要因分析、ニーズ分析、ステークホルダー分析、アントラージュマネジメント
	コミュニケーションスキルを磨く	アサーション、共感力、感情知性、コミュニケーションスキル
4	アウトカムに基づく練習作成と評価	運動学習理論に基づいた練習構築、スポーツ医・科学活用スキル
	スキル向上を効果的にする練習を組み立てる	運動学習理論に基づいた練習構築、スポーツ医・科学活用スキル
5	間の学習の目標設定とアクションプランの策定	省察的实践者、アクションラーニング、システム思考スキル、プランニング、KPI、アジャイル開発スキル
	その他、コーチに必要とされる知識	-
	第4回研修会振り返り	-

第5回（令和5年9月1～3日：対面）

ブロック	プログラム	
	テーマ	含まれる知識、スキルおよびキーワード
1	間の学習の振り返り	
	実践コミュニティ	実践コミュニティ、リーダーシップスキル、ファシリテーションスキル
2	スポーツ医・科学の活用方法	スポーツ医・科学活用スキル、情報収集力、情報発信力、ITリテラシー
3	相手に合わせたコーチングスタイルを選択する	観察・傾聴・承認・質問スキル、共感力、感情知性、文化的知性、形成的評価、フィードバック、コミュニケーションスキル、アスリート・センタード・コーチング
4	ハイパフォーマンスプロジェクトプレ最終発表会 （プレゼンテーション実践）	プレゼンテーションスキル
5	間の学習の目標設定とアクションプランの策定	省察的实践者、アクションラーニング、システム思考スキル、プランニング、KPI、アジャイル開発スキル
	その他、コーチに必要とされる知識	-
	第4回研修会振り返り	-

第6回（令和5年2月16～18日：対面）

ブロック	プログラム	
	テーマ	含まれる知識、スキルおよびキーワード
1	間の学習の振り返り	-
	実践コミュニティ	実践コミュニティ、リーダーシップスキル、ファシリテーションスキル
2	女性エリートコーチの資質能力をまとめる	特性要因分析、本質看取、ファシリテーションスキル
3	ハイパフォーマンスプロジェクト最終発表会①	プレゼンテーションスキル
4	ハイパフォーマンスプロジェクト最終発表会②	プレゼンテーションスキル
5	これからの成長計画作成	省察的实践者、アクションラーニング、システム思考スキル、プランニング、KPI、アジャイル開発スキル
	全6回研修会の振り返り	-